

# 中学校 授業振り返り表

平成26年度 多治見市研究主任会

指導過程	項目	レベル	内 容 (※協議会は、東濃地区学力向上協議会 協議のまとめの抜粋)	
1 課題化	課題の書き方	1	課題を赤線で囲み、黒板に位置付けている	
		2	課題の文字を他の文字よりも大きめに書いている(見やすさへの配慮をしている)	
		3	1単位時間の中で、できるだけ早い時間(5~7分後まで)に課題を提示している	
	必然性のある課題づくり	1	課題をつくる時は、「今日の授業では、何ができればよいか」を確認してから、課題を作成・提示している	
2		必然性のある学習課題になるように、既習事項の想起、課題を見つけるための資料・提示・事象提示等を工夫している ※協議会:「児童生徒が確かな問題意識をもって主体的に学習に取り組むことができる課題の生み出しを工夫する」		
3		生徒のつぶやきを拾い上げ、価値付け広めるようにしている		
4		できる限り、生徒の言葉をひろい、適切な表現で課題づくりを行っている		
2 個での追究	自分の考え 声かけ 認め励まし	1	課題(あるいは初発問)に対して、自分の考えをもつ時間を保証している	
		2	「追究姿勢のよさ」を認めながら机間指導している (できる限り多くの生徒に声をかけ、よさや価値を積極的に褒めるようにしている)	
		3	「考えのよさ」を認め、赤ペンでよい意見や考えに○やアンダーラインをつけている (指で示したり、褒める言葉で自信を持たせている)	
	実態把握 個別指導	1	机列表を持って実態把握に努めている(課題が把握できているか。追究方法は理解できているか。)	
		2	よく理解できていない、考えが深まらない生徒に対して、個別で指導にあたるようにしている	
		3	隣同士(周囲の生徒と)で確認したり相談したりする時間を適宜設けている (不安を解消し、安心して発言できる雰囲気を作っている)	
		4	レディネステスト等を実施し、生徒の実態把握(既習事項の定着や生活経験知)を行い、指導に役立っている ※協議会:「レディネステスト等を実施して、児童生徒の実態把握を行う学校体制を整える」	
		4		
3 仲間との追究・言語活動の充実	話す・聞く 基本姿勢	1	話し手:声の大きさ、話す方向に注意させ交流させている 話し手:「聞いてください」「どうですか」と仲間へ声をかけさせている 聞き手:話し手に対して体を向けて聞くように指導している 聞き手:「わかりました」「わかりません。聞こえませんが」等、仲間の意見への反応を指導している	
		自分の考え	2	仲間の意見を聞いて、自分の考えをもつ時間を保証している
		場の設定	3	班交流の場を設定している(教え合い・学び合い) または、課題別等で交流の場を設定している
	多くの生徒の 発言	1	生徒の思考の流れを大切に、生徒の発言を整理している	
		2	相手に分かりやすいように話させている (例:結論を述べて、理由根拠を話すように指導している)	
		3	より多くの生徒が、発言に関われるように配慮している (例:同じ内容の発言でも、別の生徒を指名し、その生徒の言葉で語らせている)	
		4	つながりのある発言、質問、疑問、反対意見を特に大切に発言させている	
		5	支援表や机列表をもとに、意図的な指名をし、深まり、広がりのある全体交流を行っている	
		6	思考を深めるための切り返し発問や揺さぶりの発問を用意している 思考力を高めるために、言語活動を工夫している(どこで、どのような) ※協議会:「授業展開のどこで、どのような言語活動を行うことが効果的かを考え、指導過程に位置付ける」	
		7		
4 まとめる	学習のまとめ 自己評価	1	自分の言葉で、学習のまとめを書かせている (課題が解決できたか。課題に対してまとめが書かれているか)	
		2	自己評価カードを使用している または、ノートにまとめの形で自己評価をさせている	
		3	自己評価や個のまとめの内容を全体へ広げている	
5 板書計画	構造的な板書	1	単位時間で、黒板1枚に収めている	
		2	板書計画を立てて授業に臨んでいる	
		3	生徒の思考を助ける板書になるように心がけている (例:既習事項・活用する語句や公式・実験図・ペープサート等)	
		4	思考の流れが分かるように書いている	
		5	生徒の言葉をひろい、適切な表現でまとめている	